

# 三重森林管理署

担当者  
森林技術指導官：中島富太郎  
地域林政調整官：小畑敏彦  
TEL:050-3160-6110

▶ 三重県の森林面積は、373千haに分布しており、県土の65%を占めており、そのうち94%は民有林です。このうち国有林は22千ha（約6%）となっています。

民有林では、スギ、ヒノキを中心とする人工林が218千haで、人工林率が63%と全国平均の46%を大きく上回っています。人工林の資源構成は8齢級以上（41年生以上）の林分が85%を占め、1～2齢級（10年生まで）の林分は1%となっています。また、人工林、天然林ともに10齢級（46～50年生）の林分が最も多くなっており、木材等生産機能と地球温暖化防止機能の発揮の観点からは、これらの成熟した森林資源を伐採し、利用した上で跡地に再造林を行う「若返り」が求められています。

一方、国有林の人工林率は48%と全国平均並みであり、養老・鈴鹿山系、台高山系の奥地脊梁地帯に多く分布しており、国土の保全や水源かん養等の公益的機能の発揮に重要な役割を担っています。

▶ 三重県との地域林政連絡会議では、平成25年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成26年度の民国連携の取組に向けて、木質バイオマス等の安定供給、獣害被害対策、低コスト林業等について意見交換を行いました。特に、三重県の素材生産量の伸び率は全国でワースト3位であり、林業生産活動の活性化の面からも民国連携による主伐・再造林の取組が重要となっています。

▶ 国有林が所在する市町の地域課題や共通課題を把握するため、今後、各種会議やアンケート等を活用しながら幅広い情報収集を行い、平成27年度に課題解決に向けて連携した取組を展開していくこととしています。



(三重県との地域林政連絡会議の様子)

## 林産物の安定供給

【課題2】木質バイオマス発電所への間伐材等の供給対策（継続）

【取組状況】

- ・未利用間伐材等を木質バイオマス発電の用途として供給するため、ウッドピア松阪と協定を締結。
- ・三重県木質バイオマスエネルギー利用推進協議会へ参画し、林産物の安定供給に向けて情報交換を実施。

【成果と今後の課題】

- ・悟入谷国有林、大杉谷国有林の素材生産事業において、協定に基づき約586m<sup>3</sup>をバイオマス燃料用として供給。引き続き、木材の安定供給に向けて素材生産事業を予定。



(素材生産事業の様子)

【課題1】素材生産事業の拡大（新規）

【取組状況】

- ・北勢地域に所在する国有林と隣接する民有林の一体的な管理経営（路網整備、森林整備、木材供給）に向け、民有林関係者と意見交換を実施。
- ・民国一体の管理経営による地域への経済効果や素材生産量等の経営上の指標について民有林関係者と検討。

【成果と今後の課題】

- ・民国一体の管理経営について、民有林関係者との合意形成に向け調整。
- ・今後、民有林関係者と地形や林分状況等を勘案しながら作業システムについて意見交換会を予定。
- ・今後、三重県各地域で予定されている皆伐促進ワーキングへ参加し、林業関係者との意見交換や情報の収集・共有を予定。

## 希少野生動物の保護

【課題】オオダイガハラサンショウウオの保全対策（継続）

【取組状況】

- ・大杉谷国有林において、三重県指定天然記念物、（国）絶滅危惧Ⅱ類であるオオダイガハラサンショウウオの保護を目的に、両生類の専門家による指導のもと、三重県教育委員会、三重県治山林道課、三重森林管理署による現地学習会を実施。

【成果と今後の課題】

- ・専門家の見地に基づく意見から、治山・林道工事の施工に係るオオダイガハラサンショウウオ（幼生）の保護対策を認識することができ、今後、治山工事等の施工にあたって、幼生等の捕獲・移動について検討。



(現場学習会の様子)



(生息調査の様子)

## 治山対策の推進

【課題1】連携した災害復旧事業①（継続）

【取組状況】

- 三重県が実施する災害復旧工事において、官行造林の地権者と三者協議を行い、国有林、官行造林地の貸付契約を実施。

【成果と今後の課題】

- 作業道作設に伴う支障木や土地の形質変更等に係る手続きが、三者協議によりスムーズに行うことができ、早期の工事着手に寄与。
- 今後、スリットダムに堆積した流木の処分について、関係機関で協議を予定。



（上流の県施工ダムの様子）



（最下流の国有林スリットダムに堆積した流木の様子）

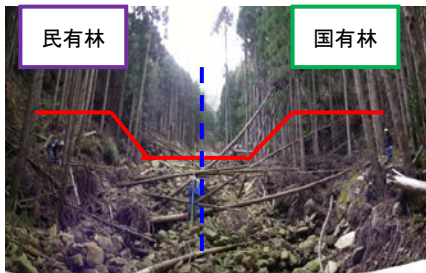
【課題2】連携した災害復旧事業②（新規）

【取組状況】

- 三重県との治山事業連絡調整会議等により、国有林、民有林間の事業の調整及び情報の共有を実施。
- 平成23年の台風12号により被災した大又川支流の地域において、大又特定流域総合治山対策により、三重県、国有林が連携して災害復旧対策を実施。国有林においては、平成27年度以降の山腹工事、溪間工事について調査設計を実施。

【成果と今後の課題】

- 国有林、民有林が近接している地域において、一体的な全体計画を作成し、国有林と民有林が連携して効率的・効果的な荒廃地の復旧整備を実施。
- 今後、平成27年度には三重県が谷止工事、国有林が山腹工事を予定。



（大又川支流の被災状況）

## 林業技術の普及

【課題】民有林への路網整備技術の普及（新規）

【取組状況】

- 悟入谷国有林において、三重県、関係市町、林業事業者等を対象に三重県北部地区の「林業専用道現地検討会」を実施。

【成果と今後の課題】

- 民有林における林業専用道等の路網作設、復旧対策における知識・技術の向上に寄与。三重県南部地区の林業専用道現地検討会について、関係機関と実施予定。
- 今後も路網整備技術の普及・向上に向けて関係機関と連携した検討会等を予定。



（現地検討会の様子）



（路肩決壊箇所の原因を分析する様子）

## 鳥獣被害対策の推進

【課題】大杉谷国有林における二ホンジカ被害対策（継続）

【取組状況】

- 二ホンジカ被害対策に係る検討委員会、現地検討会を開催し、森林被害対策及び個体数管理手法の検討を実施。
- 林野庁補助事業「鳥獣被害対策技術高度化実証事業」において、モバイルカリング、くくり罠による二ホンジカの捕獲を実施。

【成果と今後の課題】

- 二ホンジカの生息状況及び森林被害現況把握調査へ、GPSテレメトリー調査を加え、検討委員会の意見・要望を反映。森林被害対策指針実施検討委員会により、森林被害対策及び個体数管理の手法について取りまとめを実施。（第4四半期末）
- 鳥獣被害対策技術高度化実証事業により、二ホンジカ8頭（第3四半期末）を捕獲。二ホンジカ被害対策について実証事業の報告会を実施。（第4四半期末）



（検討委員会の様子）